

2019年度
第1回進捗報告会
(東日本)

総括

5月29日(水)、分科会メンバーによる研究活動の進捗報告が東京で行われました。ここではユーザー代表のソリューション研究会役員から助言があります。今後の活動に役立つアドバイスを引き出すためには、実は事前の準備が大切です。各報告内容から留意すべき点をまとめました。

論理的+独自性がカギ

ソリューション研究会で進捗報告するにあたり、留意したいのは①研究テーマが絞り込まれている ②取り組み内容にオリジナリティがある ③成果物(ゴール地点)が明確である、この3点です。いくつかの報告内容を具体的にみていきましょう。まず総合的にポイントを押さえていたのは「近年の開発手法、開発ツールの考察」メンバーです。令和時代に見合った開発手法・ツールを提言するにあたり、比較対象として過去の開発手法・ツールを遡って調査することを報告しました。調査内容によってグループ分けしてタスクとスケジュールを見える化、最終ゴールは「2019年度分科会で最優秀賞を取る」に設定。また、「メンバーはあだ名



④研究の進め方

※チーム年度別発表(企業研究発表)は、事前に1日以内の打ち合わせ、確認する

発表予定	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
発表予定									
発表済み									

発表者: A. 開発手法調査チーム, B. 開発ツール調査チーム, C. 開発手法・ツール調査チーム

発表内容: 開発手法・ツールの考察, 開発手法・ツールの考察, 開発手法・ツールの考察

発表場所: 東京, 大阪, 名古屋, 福岡, 札幌, 仙台, 横浜, 千葉, 埼玉, 茨城, 栃木, 群馬, 山梨, 長野, 岐阜, 愛知, 三重, 滋賀, 京都, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県, 徳島県, 香川県, 高松市, 愛媛県, 高知県, 福岡県, 佐賀県, 大分県, 熊本県, 鹿児島県, 沖縄県

で呼び合う”“チーム名を ToMaTo と決める”など、チーム内の結束を深めるために独自ルールを作成したことも、他チームには見られない工夫点でした。

役員アドバイス

- 時代にあった新たな手法を生み出す意気込みは志が高いですね。
- 過去にも時代背景とニーズによって様々な手法が生まれてきました。歴史を研究するならばぜひ着目してほしいです。
- 様々な手法や製品を試すのは大変かもしれませんが、実際に使用して評価できれば良い研究になると思います。

また、「RPA導入の課題」チームが注目されたのは、活動テーマの着眼点。RPA導入の課題がどこにあるか議論を重ねた結果、これまで事例が少ない「RPA導入後の課題」に重点を置くことを選定。さらに、そのテーマをどう深掘りしていくか具体的に提示できたことで、適切な助言が得られました。



役員アドバイス

- RPAを導入している企業は増えており、運用に課題が移行するという着眼点ももっともです。
- ただ、2軸にしているテーマの深掘り要素「運用」「人材育成」のうち、「人材育成」はRPAを設計する側の育成なのか、運用する側の育成なのかを今一度整理するといいかもかもしれません。
- 2軸にまたがる調査の領域「セキュリティ」「体制・教育」「保守・改善」は、それぞれ次元がバラバラでは?分類の表現を見直した方がいいと思います。

テーマをどう絞り込むかを工夫して

次に、主に研究テーマの絞り込みについてアドバイスを受けた報告を見ていきましょう。いずれもテーマへのアプローチが甘く、研究範囲がやや不明瞭。結果的に論点がぼやけた成果物になる可能性があるため注意が必要です。

まず「情報システム部門のあるべき姿」メンバーです。活動テーマは「情シスモダナイゼーション」とし、環境によって異なる“あるべき姿”に企業が対応して

いくための取り組み方を提示すると導き出しました。しかし“あるべき姿”が抽象的なこと、研究の調査方法が固まっていない点などについてアドバイスされました。

チーム内のコミュニケーション、参加者の主体性が進捗の差に

分科会名	アドバイス・ポイント
情報システム部門のあるべき姿 ～どう変わっていくべきなのか～	“あるべき姿”の調査領域が曖昧であると指摘材料に。 事例を取り入れ、一般論に留まらないオリジナリティある研究が望まれる。
「働き方改革」成功の指標 ～働き方改革に寄与するIT活用事例～	「人に着目して働き方を調査」する研究の方向性に対し、研究領域を広げるべきとの意見も。 複数の事例を取材できるかが成功のカギ。
RPA導入の課題 ～ビジネスへのRPAの利活用～	深掘りすべきテーマ選定の着眼点が良い。 全体像が見えやすい報告で、より精度の高い研究をするための具体的なアドバイスを得られた。
運用のあるべき姿(A) ～AIやRPAで運用の自動化はどこまで進化するか～	深掘りすべきテーマの選定に時間を要し、研究方法が定まっていなかった。 テーマの絞り込みが曖昧で、具体的なアドバイスを得ることができなかった。
運用のあるべき姿(B) ～AIやRPAで運用の自動化はどこまで進化するか～	“10年先のあるべき姿”を研究するという提示に対し、IT技術に10年スパンは長過ぎるとの意見が。 市場を見極め納得性のあるテーマを用意する必要がある。
近年の開発手法、開発ツールの考察 ～アジャイル、DevOps、超高速開発ツール～	研究テーマに対する調査方法、および最終のゴール地点が明確。 チーム内を活性化させるための独自ルール作成も高評価。
セルフサービスBIを使いこなすには ～ツールに必要な機能、ユーザーに必要なスキル～	深掘りするテーマ選定までとどり着かなかったが、 ガイドライン作成を前提とした調査の進め方を提示。参考になる事例を得られた。
クラウド時代におけるセキュリティの最適解 ～ハイブリッドクラウド、マルチクラウドを前提としたセキュリティ対策～	オリジナリティのある研究テーマが見つかっていない。 欠席者対応などチーム内のコミュニケーションを図る段階から改善が必要。
プロジェクトマネジメントは変わるべきか ～今どきのプロマネが知っておくべきこと～	深掘りするテーマとその領域を提示できた。 見直すべき領域は改善し、今後の研究調査に活かすことができる。

役員アドバイス

- “あるべき姿”が明確ではないので、結局どのような答えが出てくるのか想像が付きませんでした。
- 昨今はデジタル変革やアジャイルなど新しい概念が出てくる中で、情報システム部門の立ち位置はどうなっていくべきか考えてほしいという期待で設定された分科会です。一般論に留まらず具体的な事例を取り入れて役立つ研究をしてほしいですね。
- “あるべき姿”の研究か、“あるべき姿への取り組み”の研究か、曖昧さを残さず進めた方がいいと思います。

「**運用のあるべき姿(B)**」メンバーは、“あるべき姿”を“10年後のシステム運用のあるべき姿”と具体的に捉えて研究する方針を報告しました。「現場担当」「ユーザー」二つの視点でチーム分けし技術検証していく調査方法も提示しましたが、**10年というスパン**の設定に意見が集中しました。

役員アドバイス

- 1.5年で世代が変わるとされるIT業界において、7世代も先は全く違うテクノロジーになっている可能性があります。10年先を研究するなら現状の技術調査は不要ではありませんか。
- 新技術が実現した10年後の世界を調査するのか、すでに実用化された技術が10年後にもっと便利になっている世界を調査するのか。技術予測をどこに置くべきか検討した方がいいでしょう。

一方「**プロジェクトマネジメントは変わるべきか**」メンバーは、テーマの深掘りを「要件定義」「環境変化」の2軸で調査することを報告しましたが、「環境変化」の観点に偏りが見られると助言が。これまで**分科会で何度も研究されてきたテーマは、今までの研究とどう違うのか、時代に見合った新たな切り口**が求められます。

役員アドバイス

- 「環境変化」で調査する要素が法律・法令や外国人採用など労務的な領域に偏っています。例えば新しいデジタル技術導入がもたらす環境変化もあるはずなので、広い視野で捉えてください。
- 環境変化の要素出しが研究精度の如何に関わってきそうですね。
- 環境変化は要件定義にも影響してきます。双方の共通要素を検討し直し、調査を絞った方が良い成果が得られるかもしれません。

全体を見渡せる スケジュール感が大事

最後は、何度か分科会を開催しているものの、進行に苦勞しているところ
です。進捗報告会では、**ある程度の方
向性を導き出して参加した方が的確な
アドバイスを受けられます。**「まとまっ
ていない」状況での報告は報告する側

もなかなか厳しいかとは思いますが経緯報告のみに留まらないように留意しましょう。

「**運用のあるべき姿(A)**」メンバーの報告を振り返ります。チーム内で“運用”に対する解釈がまとまらず、**研究テーマを選定するまでに時間がかかった**ようです。そのため、調査方法や最終成果物のカタチは提示できず、研究テーマに選定した「非定型業務を自動化するための“あるべき姿”」は、研究領域が絞り込めていない点が残念でした。

役員アドバイス

- 研究範囲が広過ぎるので、システム運用の中でも研究対象エリアを絞って研究した方がいいと思います。
- 運用の自動化が進んでいる中で、議論されていない未着手法部分にフォーカスを当てるべき。オペレーターが将来どの作業領域までカバーするのかという点を突き詰めてほしいです。
- テーマ選定の経緯だけだと、研究に対するアドバイスがしづらい。早々に全体像を描きましょう。

